



京都府 宇治市消防本部
消防長 安岡 正之

「お茶と源氏物語のまち」宇治市

宇治市は、京都府の南端に近く京都盆地の東南部に位置し、「宇治茶」の名産地として全国的に知名度が高く、ユネスコの世界遺産である「平等院鳳凰堂」や「宇治上神社」があり、宇治十帖として源氏物語の舞台になるなど、歴史と文化にあふれた環境に恵まれています。

また、宇治橋下流で発見されました、豊臣秀吉が築いたと言われている、「宇治川太閤堤跡」が平成21年7月に国の史跡に指定されました。



平成19年9月に行われた太閤堤跡発掘現場説明会

本市の消防体制は、1本部3署2分署の配置で、消防車等16台、救急車6台など41台の車両と消防職員201名で組織され、1本団6分団378名の消防団員とともに、管轄面積約67.55km²、人口約19万3千人市民の生命・財産を守っています。

予防行政の充実

年々、火災事象も複雑化しており、市民一人ひとりの防火意識の高揚を図ることが、益々重要になっています。こうした中、住宅防火推進キャラクター「防火レンジャー」を活用した、より親しみ易い啓発活動を行っています。

また、世界遺産を含む市内随所の重要文化財の保護を目的とした「文化財まもり隊」制度を立ち上げ、火災予防と災害発生時の被害軽減に努めています。



防火レンジャー

消防体制の充実強化

「市民が安全で安心して暮らすことのできるまちづくり」を目指して、消防体制の充実強化に取り組んでいます。なかでも、多様化する災害への対応力の向上とともに、団塊世代職員の大量退職による職員の若年化に対するフォローアップを喫緊の課題と捉え、職員のスキルアップを目的とした教養研修や、教育訓練等の充実にも注力しています。

救急体制の充実強化

全国と同様に当市においても救急件数が年々増加しており、平成22年には超高齢社会に突入したこともあり、今後も救急要請は増え続けるものと考えられます。増加する救急需要対策として、「救急高度化への対応」「教育訓練体制の充実」「普及啓発活動の積極的な推進」を三本柱に掲げ、市民の安全・安心を守る取組を進めています。また、近年の救急件数の増加により、救急車の平均到着時間が徐々に延びていることから、「5分救急」を目標に平成25年度に救急隊を1隊増隊し、救急体制の強化を図り、救命率の向上を目指します。



救命講習会

消防通信指令システムの更新整備

消防防災ICT化に対応するために、現消防通信指令システムの高機能化に加え、消防・救急デジタル無線の整備にも対応する最新鋭の消防通信指令システムを更新整備し、年度内に運用開始を予定しています。

おわりに

宇治市では、東日本大震災などの地震災害を契機に、消防体制や消防庁舎問題を解消するための検討委員会を設置し、今年度に定数条例を改正（26名増員）し、今後救急隊の増隊や、老朽化した庁舎の建て替えを順次行っていくことを予定しており、災害に強いまちづくりを推進するため、災害対応能力の強化に努めています。